

ゆうあい文化祭

10月9日、建部町文化センターにて第48回ゆうあい文化祭が行われました。日中活動で頑張って作成した貼り絵を展示しました。細かくちぎった色紙を一枚一枚貼り、お月見をイメージした素敵な作品が出来上がりました。今は、食堂に飾っており、眺める人を癒してくれています。

(支援リーダー 田端裕喜)



新任職員の紹介



杉山光希

7月1日に採用になりました。前職は医療事務をしていました。福祉施設での勤務は初めてで至らないところばかりですが、皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ってみますのでよろしくお願いします。



岡本航

8月27日付で採用になりました。前職は工場勤務をしていました。障害者支援施設での仕事は初めてです。未熟者ですが、皆様のお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いします。



原聖子

9月1日から採用となりました。7年前に1年間パートでお世話になっておりました。戻ってきた時に利用者みなさんが私のことを覚えて下さっていた事に感動しました。

支援員は毎日小さな喜びや感動を味わえる、とても素敵な仕事だと思います。今後は専門性を身に付け、少しでも皆様の役に立てればと思っております。

編集後記

本年度も「焼肉会」、一日外出など様々な行事や活動に取り組んでまいりました。入所者さまの生き生きとしている姿が伝われば幸いです。作成にあたり、ご協力くださった皆様に心より感謝申し上げます。(土山英彦)

寄付お礼 (順不同) 令和元年6月~11月

- ぼれぼれ家族会様
- 尾方かおる様
- 山本 敏子様
- 西村 茂様
- 藤原 敬子様
- 益本 隆雄様
- 原 景子様
- 小橋 弘正様
- 本原 孝也様
- 奥山 進様
- 松本 章弘様
- 内田 安重様
- 永野 公之様
- 延藤 國男様
- 高松屋暢克様

お心遣いありがとうございました

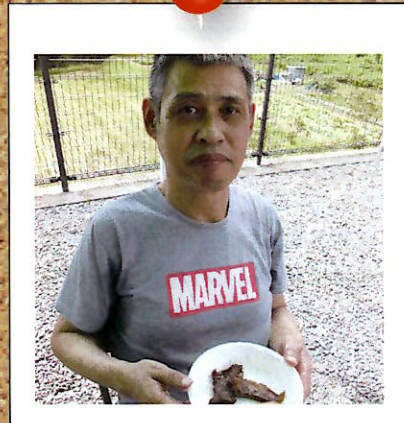
行事予定

- 1月21日・22日 健康診断
- 1月15日 とんど
- 3月28日 理事会
- 3月20日 家族会奉仕作業



9月14日焼肉会

暑い中での開催でしたが、利用者や保護者の方々の笑顔が会場に溢れ、賑やかな焼肉会となりました。(生活支援員 大原海音)



ぼれぼれの友

38

2020.01.07 発行

12月22日 忘年会

利用者さんから「楽しかったよ」という声をいただきました。皆々様と楽しい一時を過ごすことができたと思います。来年も楽しい会にしたいと思っておりますので是非御越しください。(生活支援員 徳田真治)



新年にあたって

理事長 梶谷勝彦

明けましておめでとうございます。

本年は十二支最初の年、子年です。全ての始まりと未来への可能性を秘めているそうです。新しい挑戦を始める年となるでしょう。

ばればれも創設18年目を迎えます。去年から設備等の改修、改善を行っております。運営面においても職員の皆様の努力により順調に推移しております。利用者の皆様が、日々楽しく、安心して生活できる様、一層努力して参ります。

最後に、家族会の皆様、地元地域の皆様、理事評議員の皆様の一層のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

家族会会長 福原雅子

ばればれが平成15年に「ポレポレ苑」として開所して以来お世話になっています。息子の人生のほぼ半分をばればれで過ごしていることとなります。入所当時のことを考えると、高校卒業を前に親自身がどんなに不安だったかと思われ出されます。学校の先生から「ここが最後の施設になるかもしれない」ということを聞いて、いろいろ考えた結果、高校生活を1年残して入所を決めました。

兄弟のことを考えて、幼少の頃からショートステイは時々経験していたので、家から離れて暮らすことにはすぐに慣れたと思います。でも、入所当時は非常に多感な時期だったので、多動・自傷他傷行為・奇声など支援員さんには大変ご迷惑をおかけしました。今では少しは落ち着いて生活できるようになったかなと思っています。ばればれの職員の皆様、いつもありがとうございます。そして、これからもよろしくお願い致します。

さて、本年度より家族会会長をさせていただくことになりました。力不足ではありますが、精一杯務めさせていただきます。

最近では行事が減り、保護者同士顔を合わせる機会が少なくなりましたが、色々な情報を得るいい機会だと思いますので、なるべくばればれに足を運び、子どもの幸せのために意見交換しましょう。行事への参加、よろしくお願い致します。



新年のご挨拶

管理者 山本雅司

明けましておめでとうございます。

昨年、一昨年と各地域で甚大な災害が起き、心痛な思いが重なる中で、県下においても被災地域の日も早い全面復興を祈っております。

新年を迎えるにあたり、この言葉を挙げてみました。「人生は見たり・聞いたり・試したりの3つの知恵でまともになっているが、多くの人は見たり・聞いたりばかりで、一番重要な試したりをほとんどしない」(本田宗一郎名言集より)

この言葉の意味を私自身が意識しながら、職員一人ひとりが「自分で考え、実行し、やり遂げる」といった一年にしていきたいと考えています。

各関係の皆様方には、本年も施設への一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

職員の抱負

生活支援員という仕事に就いて、約12年になります。『1人1人に合った支援を行い、安全で楽しく安定した生活を送れるようにする』をモットーの一つとしていますが、何年たっても成長がなく、失敗の連続です。何をどうすれば良いのか?一人悩み苦しむ毎日です。抱負は利用者さまの日々の状態に応じた対応を行い、安全で楽しく安定した生活が送れるよう、私が今できることを精一杯やったいこうと思います。

(生活支援員 小倉裕美)

分場

11月19日に山陽新聞の取材がありました。分場利用者、横林潤一さんの招き猫の貼り絵が「第3回きらぼし★アート展」に出展が決まりました。表町商店街が展示会場になり、近くのラーメン屋さん「桃太郎商店」の前に作品が展示されました。店主がこの「猫の貼り絵」をとても気に入られ、作品を譲っていただきたいと依頼がありました。店のマスコットが招き猫で、出展作品も招き猫をモチーフにしているということ、展示された場所が「桃太郎商店」さんの前だったという色々な偶然が重なり、取材に至りました。これを機に地域との繋がりが広がってほしいと思います。

(生活支援員 永田晃)



1日外出(勝央)

6月下旬にノースビレッジに行きました。残念ながら雨模様でしたが、館でスノードーム作りの体験ができました。好きな動物を選び、順番に部品を入れて作りました。それぞれの個性が光るスノードームが出来上がりました。昼食は、屋外(屋根付き)でバーベキューを楽しみました。色々な種類のお肉を堪能しました。みなさん、湯の郷で足湯にもつかりました。少し熱めのお湯でしたが、ゆったりとリラックスしておられたのが印象的でした。普段とは違う姿や表情が見られ、日々の支援をまた頑張ろうと思いました。

(支援リーダー 永田千香子)



1日外出(岡山市)

10月18日、利用者7名と職員3名で岡山市にある、おかでんミュージアムと奥市食堂に行ってきました。天候はあいにくの雨模様でしたが、おかでんミュージアムでは、電車の映像体験ゲームやプラレールの操縦体験をして楽しみました。奥市食堂では、みんなでご飯を食っただけでなく、プロのドラムの先生にドラム指導をしていただき、音楽も楽しむことができました。

(生活支援員 永井健太)



1日外出(神戸)

10月4日、バスに乗ること片道2時間、神戸フルーツパークへ行ってきました。直前まで台風が心配されましたがとても良いお天気になりました。青空のもと、みんなでBBQをして神戸牛を味わいました。その後は班ごとに分かれて行き先を話し合い、遊園地や猿芸、ショッピングなど、思い思いに時間いっぱい楽しませていただきました。

(生活支援員 河原あい)



1日外出(牛窓)

11月15日金曜日、雲一つない青空の下、利用者6名と職員4名で、瀬戸内市にある牛窓ベースビーチと日本一の駄菓子屋に行ってきました。牛窓ベースビーチではグランピング(瀬戸内海を眺めながらのバーベキュー)を楽しみました。いつもと違う雰囲気と地元食材を使った料理に、利用者の皆さんの笑みがこぼれ、素敵な1日外出になりました。

(生活支援員 角原光貴)



健康通信

新年明けましておめでとうございます。

ばればれでは、利用者様の健康管理の一環として、年2回の集団健診を実施していますが、令和元年度より血液検査が全員に義務付けられることになりました。(今までは40歳以上の方が対象)

血液検査の結果で気になったのが、脂質値(中性脂肪・コレステロール等)の高い人が約2割を占めていたことです。(再検査の結果は全員経過観察でした)調べてみると、この人達の多くは野菜嫌いだということが分かりました。脂質の異常は動脈硬化、心臓疾患等の原因となります。このことを重く受け止め、日々の食事の大切さを利用者の方々に、もっと理解してもらえ取り組みを栄養士と模索しているところです。

(看護師 久森正子)

栄養通信

令和2年度は、健康の保持増進、生活習慣病の予防を目的として、エネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示す「日本人の食事摂取基準」が改定されます。これを基に、施設内の給与栄養量基準値を見直すこととなります。栄養評価及び栄養管理を効果的に展開していくには、「日本人の食事摂取基準」を正しく理解し、適切に活用できることが求められます。利用者一人ひとりと接することを大切にしながら、専門職としての知識と技術の向上も忘れることなく、心身を満ちた美味しい食事を提供できるよう努力していきたくと思います。

(管理栄養士 吉崎郁子)